



after

手伝いを通して仕事の大変さや難しさを感じています。
私の趣味は、シヨベルカーやトラクターなどの重機を見たり、ミニチュアを集めたりすること。重機を上手に運転する祖父たちの姿に小さい頃から憧れていま

輝北中学校
しげのぶ ことろ
重信 琥太郎 さん(3年生)



人を笑わせることが大好きで、昼休みや放課後など、男子同士で集まって会話をすることを大切にしている。今年は学校農園の責任者である農園リーダーを務めた。

した。今では私有地内で、重機の操縦を練習しています。
将来の夢は重機のオペレーター(操縦士)になることで、進学後は建設関係の勉強が出来ることを楽しみにしています。土木と農業、どちらの専門技術を学ぶかはまだ決めていませんが、これからの高校生活で考えていきたいと思っています。



受 験勉強を始める前までは、1週間の内に4日を剣道、1日は習字を習い、週末は祖父や父の仕事の手伝いなどをしていました。祖父は養鶏、父は型枠大工の仕事をしていますが、



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!

タイムトラベル ~温故写新~

7話

加瀬田ヶ城の合戦



輝北町中平房にある加瀬田ヶ城は、明治期の鹿児島地理唱歌に「百引は山の奥ながら、加瀬田の城は建武中、義兵の抛りし跡なれば、いざ立ち寄りて見て行かん」と歌われ、南北朝時代の南朝方忠臣で肝付氏8代当主兼重の居城の一つとして著名でした。
この城は自然の要塞で、北側はシラスの絶壁、東南側は急斜面で、両側は堀が造られ、城内には井戸もあったことから、攻め難く守りやすい城でした。場所についても、島津氏が領する市成への最前線に位置し、肝付氏にとっては三俣(都城市)と



▲加瀬田ヶ城は、東に向けて伸びた丘陵に築かれている。現在でも遊歩道が整備されており、登城することができます。

高山(肝付町)とを結ぶ交通の要衝であったと考えられます。この城は、誰がいつ築城したか不明ですが、戦のあった最も古い記録は、建武三年(1336年)まで遡ります。北朝方の足利尊氏に協力する島津貞久が兼重の甥である肝付兼隆のこもる同城を攻撃。多勢に無勢の城内では、肝付氏の本城である高山や兼重の治める三俣の援軍を待ちわびますが、援軍は途中で北朝方に阻まれ孤立し、約1か月間の攻防の末に、ついには落城、兼隆は討ち死にします。
加瀬田ヶ城ではその後、観応二年(1351年)に大きな合戦が行われるなど、北朝、南朝方による支配を交互に受け続けることとなります。当時の平房・百引が加瀬田ヶ城を中心に武士社会を形成していたことを伺うことができます。